（驛遞局認可）

（日曜日休刊）（定價金二錢）

時事新報

第千三百九十八號

明治十九年十月五日　火曜日
舊丙戌九月八日（戊戌）

日出午前五時五十九分　日入午後五時三十八分　月出午後一時零三分　月入午前十一時二十九分　滿潮午前十一時三十一分　午後十時五十七分

（西暦一千八百八十六年）

時事新報定價（明治十九年十月一日改正）
一枚二錢○一箇月前金五十錢○三箇月前金一圓五十錢○六箇月前金三圓○一箇年前金六圓
時事新報社ヨリ直接ニ郵便ニテ發送スルモノニ限リ本文定價ノ外ニ一箇月廿六錢ノ郵送料ヲ申受ク

時事新報廣告料前金一行ニ付

一行廿四字詰	一日限	二日以上六日迄	七日以上十五日迄	十六日以上
自一行至十行	十錢	八錢	七錢二厘	六錢八厘
自十一行至三十行	九錢	七錢	六錢三厘	五錢九厘五毛
三十一行以上	八錢	六錢五厘	五錢八厘五毛	五錢五厘

時事新報

軍國の交通

日本の國と爲り今後陸海軍孰れを擴張するも適するや否は姑く論せざ陸軍の爲めよも海軍の爲めよも目下緊急必要なるものは內地の交通即ち是なり蓋し近代の兵の勝敗は武器の鋭利と兵卒の熟練とに在るとなれども內地の交通不便よして隨時戰地へ出張するの道なき時は看すノ＼軍機を誤りて利器精兵も夫れ丈けの働を現すも能はず當局の人の身に取りては神系頭數よして身体麻痺するが如く煩悶に堪へざる程の次第なる可し今歐洲中原の模様を聞くに武器の利、兵卒の精は申す迄もなく之れに加へて軍國の交通隨處至らざる所なし特ふ佛獨の兩國は多年積怨の間柄なれば常に其武器の鋭利を競ひ一方よて改良武器を採用すれば一方よても亦之を採用し負けず劣らず互に其改良武器に引換ふるとを勉むる者の如し抑々武器引換へと云ふとは銃砲其他の武器に改良發明あるよ當り從來の舊武器と廢して更よ新調の良武器を用ゆるとにして其都度、軍事の經濟に非常の影響あるが故に貧弱國よては他國にて改良武器を採用すると見、其武器の實際上果して鋭利なるを見るも之を新調するの費用に堪へずして其引換へを果さいるを常とす然るに佛獨の兩國と爭て新發明の武器よ引換へ其都度充分よ新武器の準備を爲し佛國などにては目下陸軍用の小銃軍人一名に就き凡四挺餘を備へ今後之を五挺にせんと目下其用意中の由、武器の鋭利斯の如く顧みて軍國の交通如何を見さば鉄道國內に縱橫して一朝警報に接すれば直に勢揃（せいぞろひ）して直よ戰地へ出張する其手廻はしの迅速なる所謂天兵飛降の字義も空しからず特に軍中に兵站部なるものありて兵卒糧仗一切の運搬方と掌り一旦事あれと其地方の鉄道は官私と論せず一切兵站部長の管理指揮ふ歸そるの法なれば軍器糧食等の運送は國中到る處自由自在にして地續きの陸戰よ出殆と戰地の遠近を計算外にする程なりと云ふ

今我國の軍備を見るに殘念ながら歐洲中原の國々に比す可きよ非ず國の進步の先後、是非もなき次第なれども其中缺る部分ふ就て見れば漫に自から輕んず可らざるものあり例へば陸軍の部などにては兵士の熟練近來案の外に進み從來はスナイドル銃を採用したるに過般は之を彼の內外に評判高き村田銃よ引換ふるとと爲し今日の處にては熊本鎭臺を除くの外悉皆村田銃に變ぜたりと云ふ又兵卒が此銃を取扱ふの熟練は追々進步の有樣にて目下尋常の兵卒よても村田銃なるを一分時間に十七八發放射の者は二十三四發を放つの手際ありと云ふ我國の武器と兵卒は斯く進步する其傍に內地の交通如何と云へば鉄道の敷設延長甚だ緩漫至極にして大都會の間と聯接するの線路さへ未だ成就せざる有様なれば況して國の端より端よ達そるの便利なく個の狹隘なる馬背大の小國にて不幸一朝其一端に事あれば其地方の鎭臺より發兵するも倘往復或は數日間を費す所なきよ非ず交通の不便利如此にては精兵利器幸にして略ぼ整備そるとあるも其働と現はす能はざるの掛念なきを得ず目下我當局者も思此に及ばざるに非ず國の全体の經濟の點より鐵道敷設を取り急ぎ東海道線路も至急敷設の都合なれども今の時に當て徒に一二の線路敷設に安んず可きよ非ず廟議早く全國の幹支線の由る所と定め民設鐵道を許すなどの豫算もあらば其個處と指定して企業者の計畫を便にせざる可らず鐵道の利益は我輩諸般の事情より之を極論したるが故に今敢て之を贅せず差當り軍事の大計より考へて利器精兵を活潑に運動せしむるふは速に鐵道を敷設して軍國の交通を便にすると肝要なりと斷言するものなり

雜報

○沖繩商議所　同商議所は此度解散の義を縣廳へ願出たりとの噂なるが右は去る明治十八年十月頃縣廳の印刷所を商議所へ下渡されんとを請願したる處本年九月上旬ふ至り聞屆け難き旨指令ありたるに付き斯くては同商議所は到底維持の目的なしとて右の如く解散を願出るよ至りたるなりと元來沖繩は他府縣と異り重立たる者は皆內地より一時寄留したる者にて去就恒なき有樣なれば何事によらず苟も市民の共同一致を要する事業は容易に爲し能はざるとなるが今不充分ながらも是迄持續しゐる商議所を解散するに於ては今後又其再立を期すべからず實に惜む可き事なり聞く所に據れば縣廳にても一時は印刷所を下渡すとに內決しゐるも中途にして故障を生じ遂よ模樣替りとなりたりとの說なり何は兎もあれ上下事情の隔絕より解散の場合に至りたるは嘆はしき次第なりと九月二十一日附沖繩よりの通信中に見ゆ

○堂島米商會所　大坂の同會所ふては兼て定款幷に仲買人申合規則を改正し其筋へ出願中なりしが此程認可と得たるよ付本月一日より實行そる筈なりしと其要領と仲買人身元金と千五百圓に增額し仲買人の員數を五十名に定むる等其他賣買取引上種々便利の方法に改正したり又同所々有の北區中之島三丁目元因州藩の倉庫は運搬の便利もよく且貯藏米の損傷も少なくして頗る適當の場所なきば今度同倉庫に庇を設け雨天の時も運搬に差支へざるやうにし且預り米の保管をなすため平日調査掛員を住居せしむるとゝなす由大坂よりの通信に見へたり

○橫須賀近報　同地造船所に於て過日來修繕中なりし天城艦は去る一日午前九時船渠を出で和歌浦丸は去る二日午後四時同じく第二船渠を出で又九州丸は同日午前九時修繕の爲先同所第一船渠に入りたり又橫須賀屯營の水兵千三百名の中凡七分通りは流行病を避けんが爲先般て日光、大山、函根、房州等の各地へ赴き居たりしが最早秋涼に向ひ病勢も漸次衰滅するよ付き去る一日殘らず歸營ゐさるよし

○淸國の大砲注文　英國のアームストロング會社は今度淸國政府より多く大砲の注文を受けゐるが右大砲は臺灣の新築砲台に備付る筈のよし是迄は獨逸のクルップ會社が淸國政府より此の如き注文を受け來りたれば英國の會社の斯く多額の注文を受けゐるは此れが始めてのとなりと云へり

○岩崎邸の建築　岩崎彌之助氏が深川區淸住町の別邸に家宅と新築そるとは嘗て本紙上にも記せしが其建築は華麗堅牢と極むるものにて土臺ふ用る御影石計りも凡一萬切程を要そる由なるが右は孰れも六百倍の顯微鏡を以て其石質を撿査そる由よて爲先に產地に於て切出し方も頗る手間取りたるに付き建築掛岡本某は實況視察の爲先近日出張する都合なりといふ

○合衆國芝居場の數　は總計三千二百四十九箇所なして內二百四十四箇所は人口十萬以上と有する二十五箇の都府に千七百五十箇所は人口五千以上十萬以下を有する六百八十九箇の都府に又千二百五十五箇所は人口五千以下を有する千二百二十九箇の都府よありと近頃同國出版の或る統計表に見へたり

○小船よて世界一周　米人トレイノール氏は今より二年程以前よ木を鑿ちて造りたる小船に乘り世界を一周せんふとを思ひ立ち合衆國のパッスを出發したるが同氏はニウフハウンドランドの港に着したりとの報知ありゐる後絕て久しく其報知もなければ多分死去したることならんと人々も思ひ居る事なるに今度同氏の朋友なる醫師バイベル氏はチャンドレルと云へる人が同じく小船にて世界を一周するの企と贊成し長さ十四英尺の小船とチャンドレル氏に贈る筈なりとチャンドレル氏は年齡四十六年にしてマスサチユーセッツ州ノーザンプトンに生れたる人なるが其航海の道順は米國と出發して大西洋を渡り瑞典諾威に至り夫より和蘭陀、白耳義、佛蘭西、西班牙の海岸ふ沿ふて地中海に入り蘇西運河と經て紅海に出で印度洋及び南部太平洋を橫切りて濠洲に達し夫より支那日本に立寄りて桑港に航し桑港よりは陸路ミッシッピー河に至り同河を下りてニウオルリヤンスより太西洋の海岸に沿ひ紐育府に歸る都合なりと云へり

○遙拜殿の建立　修成派神道事務所よては京橋區木挽町三丁目なる空地三千坪餘を借受け金刀毘羅神社の遙拜殿を建築し同所と繁華の地に爲さんとの見込ふて已に工事に着手したるよし

○秋季共同競馬　共同競馬會社にては來る十一月二三四の三日間不忍池畔の競馬場ふ於て秋季共同競馬を執行する事よ取極めたるよし

○電線架設　遞信省電信局よては今度北海道北見國宗谷へ電線と架設すべき都合にて其入費の計算中なりと

○汽車收入金高　八月中上野前橋間大宮宇都宮間及品川赤羽間汽車賃金收入の合計金五萬九千二百十五圓十錢五厘內旅客賃金三萬六千八百十九圓十八錢貨物賃金二萬二千三百九十五圓九十二錢五厘なり又同月中武豐木曾川間汽車賃金は合計金千九百七十六圓二十八錢內旅客賃金千八百五十圓十三錢貨物賃金百二十六圓十五錢なり

（本年十月四日官報）

○日本橋魚市場の景況　は屢々記せし如く本年夏期は惡疫蔓延の爲先不活潑を極めゐの衰憊たる有様は數十年來未曾有の事なりしが去月十五日頃よりは暑威大に減し隨て惡疫も衰滅の色を顯はしたるより稍や賣氣附き相應の商ひもあり廿七日よりは鰹鯖魚類も日增しふ入津し漸く平常の模樣に復し魚類の相塲も頗る一變したる者の如し昨今の相塲はヤツメ鮪三日寶最上等十貫目四圓五十錢カヂキ鮪三日寶同二圓八十錢位、尺鯛（活）四十五錢、活鰈（六七寸）十五錢活コチ（大）卅錢、活イナ四錢五厘ワカシ三錢活イナダ三錢八厘ブリ二十五錢位鰹十八錢位、生鮭は去月下旬より追々入津し初は十二錢位ありしが
に付六十錢）な
る勝貴せり鰹
地ブタ（常州
相、遠北越等の
の產を云）同三

○山口通信
雨は田畑には
量なるが塲
均して明治三
きば縣下各郡の
能はざれども山
人畜の負傷死亡
〳〵其大略を舉
して室木村新
浪の爲め日本形
ば流失の家數
た堤防の崩れ
道路の壞れたる
警察署よりは山
張したれども何
等道路は大破に
村よは壓死五人
山潮の爲め餘程
水の浸入と受く
郡吉敷郡馬關
情視察の爲め縣
本屬と大津郡へ
より警報なり
あれば人々安
り左れど山口
萬八千三百三十
よ於て常置委員

○旅の見聞（
○越後の金滿家
り予がこの二
自の特有物產よ
し事既に前にめ
の多き他にこれ
らず、而して其
此事は全國各地
が故よ、には
因たるとなきば
るもの尠からず
ども第一、越後
の間の時日少な
るをもて農家一
りたと言傳ふる
阿賀川の諸流沿
の不良質に已む
よ產出額の多量
には疑ひなし、
るに縣下より他
年十萬圓以上の
米　一、四九
鰊魚　一三
右の外、農產物
す、近年越後よ
も年億りに一萬
乏しきの地、否な
なるらん
世人の言に越後
も其言の通りな
といふに米に附
十八年三月調べ
明治十三万圓以上